



第2回

所沢航空発祥記念館

日本の航空発祥の地「所沢」

1903（明治36）年、ライト兄弟が「ライト・フライヤー号」で世界初の動力飛行に成功し、欧米における航空への関心と技術は急速に進みはじめました。日本もこの動きに刺激され、航空技術を研究するための臨時軍用気球研究会が1909（明治42）年7月に創設されました。

研究会最初の事業のひとつは飛行場用地の選定であり、所沢のほか、首都に近いいくつかの場所が候補になりました。地形や気候が適していたことに加え、当時気球隊が駐屯していた東京府・中野町から鉄道の便が良かったことから所沢が選定されました。

1911（明治44）年4月1日、臨時軍用気球研究会所沢試験場が開設され、幅50メートル、長さ400メートルの滑走路と格納庫、気象観測所を備えたわが国最初の飛行場「所沢飛行場」が誕生しました。同年4月5日から15日まで最初の演習飛行が行われ、初日の早朝、徳川好敏大尉の操縦するアンリ・ファルマン機が、高度10メートル、飛行距離800メートル、飛行時間1分20秒を記録しました。これがわが国で最初の飛行場における初飛行として記録されています。

施設の見どころ

館内ではフライトシミュレータでの模擬操縦体験をはじめ、航空の歩みや技術、航空機展示・科



アンリ・ファルマン機



フライトシミュレータ

コラム

日本最初の国産軍用機完成

1911（明治44）年7月から10月にかけて徳川大尉の設計により日本で最初の国産軍用機「会式一号機※」が所沢飛行場内で製作され、その後の日本の国産機を發展させる基礎となりました。この「会式一号機」の復元レプリカが館内に展示されています。

※会式一号機：会式一号機の「会」は、臨時軍用気球研究会の「会」から名付けられたもの。正式名称は「臨時軍用気球研究会式一号機」。「会式一号機」の通称のほか、設計した徳川好敏氏の名前から「徳川式」とも呼ばれました。



会式一号機のレプリカ



大型映像館

学体験展示など空への興味・関心を誘う展示がそろっています。

また、併設の大型映像館では巨大スクリーン・立体音響システムを備え、航空関連の作品から公園に遊びに来たファミリーやお子様向けの作品まで幅広く上映されています。



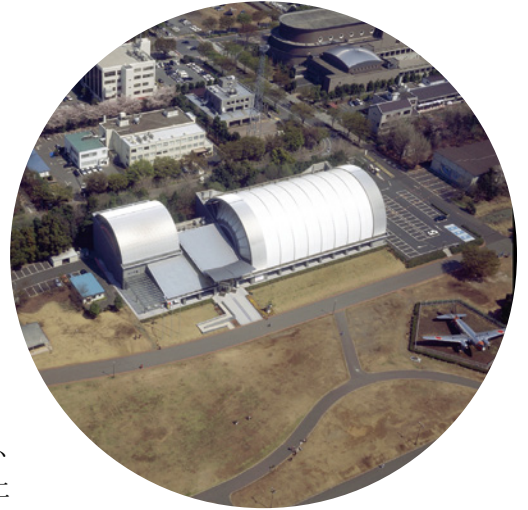
館内には実際に活躍した飛行機やヘリコプター、グライダーなどの実機が多数展示されている

コラム

所沢航空記念公園

所沢飛行場は終戦後、米軍に接収され占領下にありましたが、住民等の強い返還運動が実り、1971（昭和46）年より段階を踏みながら米軍の通信基地を残し返還されました。返還された跡地の一部は日本の航空発祥の地を記念した所沢航空記念公園が整備され、その後公園のシンボリックな施設として1993（平成5）年、所沢航空発祥記念館が完成しました。また公園に隣接する場所には、東北地方南部から中国地方東部までの広大な空域の管制を司る国土交通省の「東京航空交通管制部」もあり、ここ所沢で空の安全を見守っています。

また、市内には「ファルマン通り」や「プロペ通り」、「飛行機新道」など、飛行機にちなんだ名称も多く残ります。



開館当時の航空発祥記念館



航空公園駅のロータリーには、戦後初の国産旅客機 YS-11 が翼を休める

写真提供：所沢航空発祥記念館



所沢航空発祥記念館 TOKOROZAWA AVIATION MUSEUM

〒359-0042 埼玉県所沢市並木 1-13

所沢航空記念公園内

TEL 04-2996-2225

<https://tam-web.jsf.or.jp/>

利用案内

開館時間：午前9時半～午後5時（入館は午後4時半まで）

休館日：月曜日（祝日と重なる日はその翌平日）、年末年始

入館料：大人 840 円、小中学生 320 円、65 歳以上 680 円（展示館・映像館セット券）

開館状況は、所沢航空発祥記念館ホームページに随時反映していますので、ご確認のうえ来館ください。